

紀 要 委 員 会

委員長 薄井 明
委 員 内ヶ島伸也 唐津 ふさ
神田 直樹 佐藤 園美
志水 朱 櫻井 潤

編 集 後 記

前任の小林正伸先生が地域包括支援センター長に就任したことに伴い、任期途中の本年4月急遽、私が編集委員長を引き継ぐこととなりました。委員長に就任してみると、一投稿者の立場では遭遇しない種々の問題に直面する連続でした。本号で看護福祉学部紀要は第23号になりますが、慣習的に行ってきたいくつかのことを今のままの形で続けてはいけないのではないかという思いが少しずつ強くなってきました。紀要投稿数の漸減傾向、学部紀要と学部学会誌の関係、紀要の電子媒体化に伴う紙媒体の不要性など、課題は少なくありません。しかし、今回改めて実感したのですが、看護福祉学部紀要が学部の学術面で重要な“顔”であることは議論の中軸に据えるべき大事な点です。この点を看護福祉学部教員の皆さまに訴えましたところ、11本という、近年では最多に近い投稿数をいただくことができました。看護福祉学部の“底力”を垣間見た思いです。また、編集委員の先生方からは、種々の面でのご助力に加え、学科の実情と紀要との関係をめぐる情報や貴重なご意見・ご提言を頂戴しました。そのようなわけで本号は質・量ともに学部紀要の“面目”を保つことができましたが、こうした投稿の盛況ぶりを一過性に終わらせてはなりません。そのためには、編集委員の先生方のご協力はもちろん、看護福祉学部教員の皆さまの英知を結集していただくことが必要です。微力ながら私も編集委員長として尽力していく所存ですので、皆さまには建設的なご提言やアイデアなどをお寄せいただくことを切にお願い申し上げます。